

カルメル 霊性センターニュース

イエスの聖テレジア(アビラ)
十月十五日 祭日



宇治カルメル会 聖テレジア修道院 聖テレジア像

2017年10月

335号

目次

来年度の郵送お申込みのご案内	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	23
東京	24
名古屋	27
京都	28
北陸	30
諸所の企画案内	31
郵送お申込みのご案内	44
編集後記	45

『靈性センターニュース』

来年度の郵送お申込みのご案内

愛読者の皆様

『カルメル靈性センターニュース』事務局は、本年7月より、上野毛修道院から宇治修道院に移転いたしました。

このため、振替口座を宇治の方に新たに開設いたしました。来年度（2018年1月～12月、8月休刊のため11冊）の『靈性センターニュース』の郵送をご希望される方は、以下の振替口座に2,750円程度の献金（郵送料込みで1冊250円の献金とすれば、11冊で2,750円程度の献金）をお振込みいただければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-33318

加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、混乱を避けるため、年間の「郵送申込」か純然たる「靈性センターへの献金」かを明記してください。また氏名、郵便番号・住所、電話等もお忘れなく。お問い合わせは、事務局の方へ電話かファックスかe-mailで、お願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

《変更しました》 reisei@carmel-monastery.jp

『カルメル靈性センターニュース』編集長
九里 彰神父



宇治カルメル会 アビラのテレジア像

心の泉





第三卷

第六章 愛する者への試練

6 勇ましく戦いなさい

よい兵士として戦いなさい。力が弱く倒れることがあっても、いっそう気力をふるい起こし、神の恵みがより多く与えられることを信じ、空しい自負と傲慢とを避けなさい。さもないと、人は過失に陥り、ほとんどいやしがたいほど心の目が見えなくなる者がある。おろかにも自分を過信する傲慢な者が滅びるのを見て、あなたは、それを絶えず警戒と謙遜の戒めとしなければならない。》

第七章 謙遜をもって神の恵みにつつまれる

1 主

《子よ、敬虔の恵みを隠し、そのためにうぬぼれず、それについて語らず、それにあまり気をつかわず、むしろ自分をあなどり、自分はそれを受けるのにふさわしくない者だと考えるほうが、あなたにとってより有益で、安全なことである。またそれにかたくなに執着してはならない。その感情は、すぐほかの感情に変わり得るからである。神の恵みをもっている時には、それがなかったら自分はどんなに貧しくみじめであるかを思いなさい。慰めの恵みを受けたことによって、霊的生活に進歩したと思うな。むしろ慰めが奪われることを謙遜に忍ぶ時にこそ、霊的進歩がある。その時こそ、あなたは熱心に祈り続け、日頃おこなっている信心業を怠るな。できるかぎり、信心業に努めなさい。心の乾燥と不安を感じたとしても、自分の義務をおろそかにするな。》

創造主への賛美（2）

くのり
九里 彰

創造主というと、神は万物を創造した後、被造物とは一切関係せず、この世はこの世の法則で動いていくといったイメージを持つ人も多いのではないだろうか。時計など、人間の作り出す機械のイメージであろうか。

近代西欧思想の代表者に、ルネ・デカルト(1596-1650)がいる。第二の回心を経て、信仰を生きる者となったブレーズ・パスカル(1623-62)は、デカルトが自己の哲学体系の構築において、神という概念を利用しただけだと批判し、こう言っている。

私はデカルトを許せない。彼はその全哲学のなかで、できることなら神なしですませたいものだと、きっと思っただろう。しかし、彼は、世界を動きださせるために、神に一つ爪弾きをさせないわけにはいかなかった。それからさきは、もう神に用がないのだ。(『パンセ』77)

聖書の伝える神は、いったんこの世界を創造した後は、我関せず、知らんぷりというのではない。神の慈しみの内に創造された天地万物は、その後も、神によって絶えず支えられ、司られているのである。

主は月を造って季節を定められた。太陽は沈む時を知っている。
あなたが闇を置かれると夜になり、森の獣は皆、忍び出てくる。
若獅子は餌食を求めてほえ、神に食べ物を求める。(詩 104・19-21)

人間も動植物も、(山や川や海も)、神によって存在させられ、生かされているのであって、神が「息吹を取り上げられれば彼らは息絶え、もとの塵に戻る」(同上 29) のである。

主は天上の宮から山間に水を注ぎ、御業の実りをもって地を満たされる。家畜のためには牧草を茂らせ、地から糧を引き出そうと働く人間のために、さまざまな草木を生えさせる。ぶどう酒は人の心を喜ばせ、油は顔を輝かせ、パンは人の心を支える。主の木々、主の植えられたレバノン杉は豊かに育ち、そこには鳥は巢をかける。こうのとりの住みかは糸杉の梢。高い山々は野山羊のため。岩狸は岩場に身を隠す。(詩 104・13-18)

年間第 26 主日 (A)

「後で考え直して」

父と兄と弟の譬えです。兄はブドウ園に行って働けという父の言いつけに「嫌です」と答えますが、あとで考え直して出かけます。弟は「承知しました」と答えたものの出かけませんでした。「徴税人や娼婦たちの方があなたたち（祭司長や民の長老たち）より先に神の国に入る」とイエスが仰るのですから、譬えの兄は徴税人や娼婦たち、弟は祭司長や民の長老たちということになります。当時尊敬されていた人たちが弟だと言っているのですから面白い対比です。

弟は自分が義人であるとうぬぼれ、回心の必要を認めませんでした。一方、兄は救いを必要としていました。本当に、心の貧しい人は幸いなのです。

イエスは、「なぜ、あなたは徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」と問われ、「医者が必要とするのは、健康な人でなく病人である。私が来たのは義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである」と答えています。ここで言われる「義人」は正しいと自分で思っているだけの人たちです。

真の信仰は、神を父として愛することです。神に身を委ねることです。考え直すこととできることと言ってもいいでしょう。すなわち、神によって常に新しくされることです。考え直すことによって信仰が深くなります。キリストは御父の使命を果たすために来られました。地上で、受難の直前においては血の汗を流しながら祈られました。つまり、信仰の道を歩まれました。キリストは信仰の創始者にして完成者（ヘブライ書）です。キリストの切り開いた信仰の道を生きる時、真の神に出会えます。真の神に導かれるようになります。

考え直すことによって信仰が深まり、神の目で自分と自分の周りを見ることができるようになります。今までの自分が神をまだよく知らなかったのだとわかるようになります。

(新井)

すでに使用できるようになっている土地を買うことと、荒れはてた土地を買いそれを自分で整えるのとは全く違います。いったんきちんとすると、後のほうがずっと価値があります。汗と血の実りとなっているからです。これは単なる所有物というよりはあなたの部分です。本日の福音の中で、地主は土地を買い、自分で働いてぶどう園を作り、それを小作人に貸しました。小作人に任せたとき、ただ利益を求めただけでなく、ぶどう園を管理してくれることを望みました。それに非常に価値をおき、自分の息子の命を賭けるほどでした。キリストはご自分のぶどう園（教会）をつくり、私たちの手に任せられました。キリストはご自分の働きやご自分が価値をおいているものを無償で私たちに委ねられました。キリストは私たちに為すべき仕事を与えられただけでなく、他の靈魂の永遠の救いを私たちの手に神秘的に任せられました。

地主は小作人を厳しく監督するために見回ったりするようなことはしませんでした。規則を決めたり、栽培の方法を定めたりしませんでした。主人は小作人がよいと思うように仕事をするに任せました。神は専制的な厳しい監督ではありません。神はぶどう園での労働が厳しい仕事であることをご存知です。収穫のとき、主人は次々使いを送りました。彼は怒ったり、使いがひどい目にあったり虐待されたりしても、小作人たちを咎めたりしませんでした。むしろ、彼は自分の息子を送りました。小作人たちの自分勝手に我慢し、理解と寛大さをもって小作人たちを励ますため、でき得る限りのことをします。

「あなたは冷たくも熱くもないから、私はあなたを口から吐き出そうとしている」(ヨハネの黙示録 3:15)。ファリサイ人のより重い罪は、彼らの決定したことにあるのではなく、むしろ決定しないことを選択した利己的で目にみえない不毛にあるのです。キリストがファリサイ人に対してはっきり言われたとき、「だから、言うておくが、神の国はあなたたちから取り上げられ、生命を尊ぶ民族に与えられる」(これは同様に厳しいものです)と言われたというよりは、むしろ実りをもたらさなかったことに対してファリサイ人をたしなめたのです。この言葉は基本的には同じように厳しいものであることに注目してください：一方の罪は生命を奪い、もう一方の罪は生命を与えることを拒むのです。

主なるイエスよ、あなたのみ手は人間の労働をご存知です、あなたはあなたの生活とあなたの労働を通してあなたのまわりの人たちの生活を聖なるものとされました。あなたが教えてくださる功德を知ることができるように助けてください。自分の手と心の働きで私たちの能力全てをあなたにお返しできるように助けてください。私たちが日々使徒的働きを全うできるように助けてください。

(Sr. Paulina)

「婚礼の衣服を着て婚宴に出る」

今日の福音は、王が王子のために婚宴を催し、招待しておいた人を呼びにやらせたものの誰も来なかったので、町の通りで見かける者を誰でも婚宴につれて来いと命じたというお話です。この喩えはユダヤ人が神の国に入るのを拒んだので、異邦人が招かれたという意味に解釈されます。他方、人が生涯の終わりに神の御前に立つ事を「婚宴」と見る事もできると思います。私たちはいつ死ぬかを知らないのですから、それは通りを歩いているときに突然婚宴の席に連れて来られるようなものかもしれません。喩えの最後のところで王が婚礼の礼服を着ていない者を見つけ、縛って外に放り出せと命じます。この言葉の意味を考えてみたいと思います。

この人は通りを歩いているところを連行されたのですから、礼服を着ていないのは当然です。ところが王は礼服を着ていることを求めます。この王は神です。礼服は普段から身に着けている何か、つまり神の国に入るのにふさわしいことを示すものです。この意味では礼服は一生をかけて準備するものであるといえます。婚宴の直前に着るものでなく、その人に深く備わり、身についたものであるはずです。人間が生まれてくるのは神をたたえ、神に感謝するためであると言えます。それなら神から与えられた人生を十分に生き、神に感謝しながら死ぬ人は礼服を身に着けていると言っているはずはいいはずはいいはずです。

かつて大ヒットした歌に「閑白宣言」というのがありました。その中で「年をとったら俺より先に死んではいけない。たとえわずか一日でもいい、俺より早く逝ってはいけない。何もいらぬ。俺の手を握り、涙のしづく二つ以上こぼせ。おまえのお陰でいい人生だったと俺が言うから、必ず言うから」とさだまさしが歌っていたのを覚えています。私は、まだ若いのになぜそんな年とった時のことを歌うのだろうと思ったものです。しかし、実はさだまさしの祖父が死ぬ間際に祖母に「おまえのお陰でいい人生だった」と語ったのだそうです。そしてそれを子供の彼が祖母から聞き、心にしっかりと刻み込んでいたのです。こういうすばらしい言葉は死ぬ間際に頭をひねっても出てくるわけがありません。長い結婚生活を通して愛と信頼関係を築きあげて来て始めて口をついて出て来るものだと思います。急に突然礼服を着ようとしてももう遅いのです。死ぬ間際にこういう心に残る言葉を言える人は主から「あなたは神の国から遠くない」(マルコ 12 : 24)と言ってもらえるに違いありません。

この祖父は妻と言う最も近い隣人を愛する事によって神を愛していたのでしよう。

その人を心から愛する事によってすべての人を愛する、つまり無私の愛の環が広がる、そういう人を持てる人は幸せです。無私の愛は神のほうに向かうからです。私たちは死ぬ間際に「神様、あなたのお陰でいい人生でした」と言えるようになりたいものです。しかしながら礼服を身に着けるには長い間の準備が必要です。準備が終わらないうちに神から呼ばれることがないように心がけ、目覚めていましょう。

(新井)

年間第 29 主日 (A) (マタイ 2: 15-21)

わたしたちが十字を切る時、この行為の真意をどのくらい思い巡らしているのでしょうか？教皇ベネディクトは“the Spirit of the Liturgy”の中で次のようなことを仰っています。「十字を切って自分の全てを捧げることは、公然と見える神に対する感謝であり神に繋がっている者であることの表明です。その方は人間のために極度に苦しまれ、神の愛を目に見えるものにして下さった方、破壊によってではなく苦しむことと愛することによる謙遜な姿で治められる神、この謙遜はこの世のあらゆる力よりも力強く、人間の利己的な計算高い知能などとはかけ離れた賢明なものです。」十字を切る時、十字架上で流された御血の功德によって罪を贖って下さった方に属する者、父と子と聖霊の神に属する者であることを表し、これをするします。神が結んで下さった契約によってわたしたちは神に属するものとなりました。十字を切る度に神によって贖われたものであることを思い起こし、わたしたちも快く自分自身を神に捧げて行くようにすべきです。これは本質的な人間の在り方、生き方です。

最後の晩餐でイエスは祈られました、“わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないのです。・・・父よ、わたしに与えてくださった人々を、わたしのいる所に、共におらせてください。それは天地創造の前からわたしを愛して、与えてくださったわたしの栄光を、彼らに見せるためです”（ヨハネ 17: 16-24）。このようにわたしたちはイエスの栄光を見るために、またイエスと共にいるために神によって居るべき場所をいただいています。洗礼の秘跡の恵みによるものです。この事実を心に留め、これを表すために聖堂の入り口で聖水をつけ丁寧に十字を切ります。日々の様々な考え方、言葉、行いをもって今日まで、キリストに従う者は神と共にいつもこの真理を生きてきました、神のものとして神の望まれる生活を神に捧げながら。

教皇聖ヨハネパウロ II は詩篇 145 を思い巡らし書いておられます：ですから人間は自分自身が二つの相反する可能性の前で基本的な選択を強いられているのです。一つの方には不道徳と自己愛、傲慢に生きる生活への誘惑があります。実際、その道はつるつるした滑りやすい破壊への道、彼らの道筋は曲がり、通う道はくねっている、(箴言 2: 15) この道の辿りつく先は絶望です。確かに詩篇作家が言っているように、人間は壊れやすく死を免れ得ないものです、ヘブライ語の adam が土、物質、塵を意味するように。人間は、聖書が記している通り、夜明けには青々としていても夕べには枯れてしまう草のようなものです。これを心に留め、神の言葉を受け入れ、戒めを大切ににし、神の計らいの中で与えられている個々の生活の全てを捧げ捧げましょう。永遠のものであるわたしたちの靈魂を神に捧げます、神に属しているものとして。

主イエスキリスト、どうかこの世の誘惑に心奪われず、あなたへの道から反れないようにしてください！あなたのみ国においてのみ、わたしたちは永遠にあなたの恵みで満たしていただけるのですから。

(Sr. Paulina)

年間第30主日

(マタイ22：34-40)

今日はファリサイ派の人々で、律法の専門家がイエスを試そうとし問答を仕掛けます。「律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」と。それに答えてイエスは言われました。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。」と。

イエスが言われる様に、神を信じる者にとって、神への愛が大切なものであることは言うまでもありませんね。同じ様に、隣人への愛も重要であるとイエスは言われます。そして最後に、律法全体と預言者、すなわち旧約聖書、旧約聖書で語られていることは、この2つの掟に基づいていると言われました。

どちらも大切なのですから、神を愛する人は隣人を愛しており、隣人を愛する人は、神を愛しているのですね。神への愛は、神だけにとどまらず、その人の中から溢れ出ておのずから人に対しても現れますし、また人への愛は、その人のうちにある神への愛を具体的に表しているとも言えるでしょう。

イエスはファリサイ派の律法学者に、この2つの大切な掟のことを言われましたが、もしかすると当時の人々、特に彼らはこのことを守れていなかったかも知れませんね。自分たちは律法を守っており、神の前で正しい存在であり、通常の民衆より優れている、そう思う彼らは、隣人への愛、そして神への愛からも離れていたかも知れません。

私たちが自分自身を振り返って見た時、イエスが仰ったことば、神の民の大切な掟を守っているでしょうか、実行しているでしょうか。私はクリスチャンだから、神の前で正しい存在であり、クリスチャンでない人よりも優れている…その様に思っているなら、神を愛している、人を愛していると自分では思っている、実際には神への愛、人への愛から遠く離れているかも知れません。

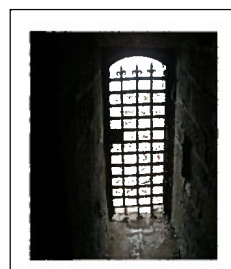
今日の福音は心にどう響くでしょうか。自分の姿をあらためて見つめ直し、神への愛、隣人への愛に生きることが出来ます様に。愛に生きるのが難しいと感じているならば、神に謙遜に願いましょう。神よ、あなたの愛で、あなたを愛することが出来ます様に、隣人を愛することが出来る様にと。愛そのものである神が、ご自身の愛で愛することが出来る恵み、愛を与えて下さるでしょう。神は愛なのですから…。

(Fr. 古川利雅)

糸巻き棒からペンへ(24)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD



とはいえ、ときどき、賢明さゆえに、彼女が詳しく論じないテーマに出くわします。そのように手紙の受取人に知らせています。「手紙ではよくありません…。それらのことは書くべきことではないので、お会いした時に申し上げます」。

幸いにして、神の母のヘロニモ（グラシアン）、アビラのフリアン、イエズスのアンナ（ロベラ）、聖バルトロメのアンナ（ガルシア）、聖ヨゼフのマリア（サラサール）など、聖テレジアにより直接的に関わった、さまざまな協力者が、彼女との関わりを、つまり、彼女と一緒にした旅の思い出や修道院の創立を、あたかも彼女から受け取った教えかのように、彼女にならって、文書にしました。これらすべての書き物は、聖女の著作を補完する貴重なものです。

「厳しい」時代

16世紀において、教育の世界は、もっぱら「学問のある者」（男性）、すなわち、認知された学問を修了している者のみに許されていました。ミサの説教そのものも、すべての司祭に開かれていたのではなく、それを行なうためにはいくつもの特別な許可証を、すなわち司教の委任を受けた人だけが許されていました。

ロヨラの聖イグナチオは、『自叙伝』でこう語っています。彼は、回心の後、個人的な祈りを行なうよう人々に促すため、神について話すことを好みました。アルカラの学生であった時、異端審問所は、彼を起訴し、司教代理は、彼を42日間、牢屋に閉じ込めました。「人々は彼を調べることもなく、また何の理由かも知らずに…。ついに司教代理が牢屋にやって来て、彼を取り調べました。たくさんのことについて、安息日を守っているかどうかまで尋ねながら。そして彼は無実であると宣言しましたが、信仰の事柄については、彼には学識が足りないのです、もっと学識を増すまで、話してはならないと命じました」(nn. 61-62)。それは、新しいキリスト信者に対する彼らの強迫観念でした。疑う余地のない出身の古いキリスト信者に対してまで、彼らは、ユダヤ教徒の聖なる日である安息日を守っているかどうかたずねたのです。彼らは、彼に罪を見出すことはできませんでしたが、彼が学業を終えるまで、信仰の事柄について話すことを禁じたのです。

我ながら妄想とも思いかねない、想念の漫遊なのですが・・・。

先の九月号に、将棋の藤井聡太四段が盤上の窮地を脱出するのに、「よい子は真似をしてはいけません」と、解説者に思わず言わせてしまう奇策の一手を打ったことに、いたく心を捕らえられて、あれこれと思いをめぐらし、挙句の果てにというか、とっさにというか、「過ぎ越し」などという突拍子もないことに思い至ったこと、書き記しました。

そうしたら、その「過ぎ越し」からまるで連想ゲームであるかのように、今度は「出エジプト」「モーセ」のことが、心をいっぱいに占めているのです。

一日の中のわずかなひととき、深く静まった独りの世界が訪れてきて、私の魂は、ぼんやりと所在ないままに遠くへ遠くへと彷徨します。そこでは聖書に登場する人たちとも、数千年もの時空を超えて近しく出会い、喜怒哀楽を共にして交わりつつ、とめどない想いを追うのです。

モーセは魅力あふれる素敵な人物です。

神の命を受けて、イスラエルの民をエジプトの奴隷状態から脱出させ、神の約束の地へと率いる指導者としての苦難と信仰の生涯は、生誕から終焉まで正に波瀾万丈、人の心を熱く惹きつけてやみません。映画にも文学にもこの上ない題材として扱われます。そして私にとっても、限りない憧憬を抱きながら、息をつめて思いを向けるモーセなのです。

周知のお話ですが、殺される運命のイスラエルの男児として生まれ、生か死かの賭けとして捨て子され、主なる神のはからいなのか、エジプトの王女に拾われて生きのび、たくましく美しく成長する。正義に駆られてのこととはいえ、人を殺したこともあり・・・。やがては祭司の娘と結婚する。

そんなモーセが或るとき不意に神に呼ばれるのです。その神の声をしっかりと聴きとめたモーセは、イスラエルの民の指導者として召され、有名な脱出物語が始まるのですが、そこにあるのはとにかくとにかく主なる神とモーセとの何という濃密な熱烈な信頼関係なのでしょうか。私はいつも圧倒され、身も心も震えます。

主なる神を信頼し、主を叫び求めるモーセの何という切なること、主のみ言葉を信じ信じて疑わない何という心の真、必然的にそこにある苦難苦痛を確かに引き受ける何という魂の誠実。

一方主なる神は、モーセを絶対に手放しません。決して見放しません。

約束を守り、奇蹟を与えて苦境を救い、胸に子を抱くようにして最後の最後までモーセを守り導きます。

私は「イスラエルは私なのだ」と、自分をよくイスラエルになぞらえます。

人としての弱さ悲しさ、希求の切なさ、相克、葛藤、すべてが私自身のことであり、思いは一つとなって身に沁みます。そしてイスラエルはほんとうによい指導者を与えられたものと、いつも畏敬と感謝とよろこびに深く思いをいたすのです。

主のお言葉のとおり、モーセ自身は約束の地へは入ること叶わず、その土地のすべてをすみからすみまで山頂から見渡して、波瀾の生涯を終えます。何もかも主なる神のおことばの成就なのですが、モーセの胸の内を察するとき、きっと無念などではなく、もっと澄みきった明るさに違いないと思いつつも、こみ上げてくるものを抑えることができません。心を尽くし魂を尽くし知を尽くして神を愛するということを教えられる気がします。

モーセの遺体は、主なる神ご自身の手で埋葬されたとあります。

どんなにか慈愛に満ちた御手であつたらうと想像し、感極まる思いです。

苦難、罪、暗闇から、神の約束、成就、よろこびへの過ぎ越しは、絶えることなく綿綿と続いているのだと思います。旧約から新約に至り今現在もです。

その救済史の内にあつて、私はモーセの精神、モーセの面影にきっと幾たびも出会ってきているのでしょう。ゆえにこそモーセへの親しさがこれほどにリアルに身近に感じられるのだと思っています。今、私たちのこの世界にどうかたくさんモーセが存在していますように、心から願ってやみません。

飽くなき想いを馳せ、想念はまたしても漫遊ですが・・・。

それにしてもナザレのイエズスは「出エジプト」「モーセ」をどのようにお心にとめておられたのでしょうか。ととてもとても興味があります。

イエズスご自身が新しい「過ぎ越し」の食卓を置かれ、ご自身が「贖いの子羊」となられ私たちを闇から光へと過ぎ越しさせてくださっていること、今もいつも世の終わりまでともにいてくださる神の子キリスト。

とめどない想念の果てに、今、私はただこう応えるほかはありません。

「あなたをおいてだれのところへゆきましょう」

いのちの言葉 10月

キリストが抱いたと 同じ思いを抱きなさい

(フィリピ 2・5)

使徒パウロは、イエスを述べ伝えたかどで投獄され、獄中からフィリピの信徒たちに手紙を書いています。フィリピの町に初めて福音を伝えたのはパウロでした。

そこでは、多くの人が福音を信じ、パウロがそこを去ってからもなお、彼らがキリスト者として、熱心に愛を証ししながら生きていることを知った、パウロの喜びはひとしおでした。彼の手紙にはフィリピの共同体への愛があふれています。

手紙の中でパウロは、彼らが個人的にも、共同体としても、さらに成長し前進していくようにと励ましています。そして、具体的にどう福音を生きたらよいか、その手本としてキリストを彼らに思い起こさせ、彼に学びなさいと記しています。

では、キリストと「同じ思い」とはどんな思いでしょう？ パウロは次のように言っています。「キリストは、神の身分でありながら、神と等しいものであることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、^{しもべ}僕の身分になり、人間と同じ者になられました」¹と。

パウロは、イエスの生涯を彼らに思い起こさせ、イエスが行なったのと同じことをお互いの間で行ないなさいとだけ勧めます。

イエスは、神がすべての人をどれほど深く慈しんでおられるかを知らせるために、地上に来られました。

事実、イエスはその公生活の始めから、病人、重い皮膚病を患う人（彼らは社会から排斥されていました）や最も弱い立場の人々のもとに行き、彼らを癒されました。またローマ皇帝への税金を徴収する徴税人で、当時の人々から嫌われ、

「^{つみびと}罪人」と見なされていたマタイをご自分の弟子にしました。あるときは水を汲みにやって来た異教徒のサマリアの女性に、ご自分の心を開いて話をされました。

このようなイエスの姿にすべての人を慈しまれる神の愛を見ることが出来ます。イエスは生涯を通して、ご自分を無にし、誰からも相手にされない、弱い人、見捨てられた人々に仕えられました。

こうしたイエスと同じ「思い」を、どうすれば私たちも抱くことができるのでしょうか？

まずは、私自身がイエスから愛されていることを信じることから、その一歩が始まるのではないのでしょうか。イエスを見つめながら少しずつ、その生き方を学んでみる。

そして私たちも、心と思い、両腕を大きく広げて、一人ひとりがあるがままに受け入れることから始めてみましょう。相手を裁くのはもうやめ、その人が持っている良い点を見つけるようにしてみましょう。たとえ相手に多くの欠点があり、間違っただけばかりする人のように見えても、何をしても無駄だと思えるようなときでも忍耐を持ちましょう。そうするうちにきっと誰もが、他の人を豊かにする何かを持っていることに気づくでしょう。

また、イエスから学ぶことに欠かせないのは『無償の愛』です。私たちも、それぞれの生活の場で、自分に与えられた才能を他の人のために生かしながら、ときには勇気を出して具体的に、ひとり一人と良い関係を築いていくよう努めてみましょう。困難や無理解にぶつかったり、考え方が相反する^{あいはん}ような時にも、柔和な心をできるだけ保ちながら、信念を持って対話と調和への道を歩んでいきたいものです。

キアラ・ルービックの生涯は、福音に導かれた生涯だったと言えるでしょう。福音の力を体験した彼女はこう記しています。

「キリスト者にとって、イエスに倣うとは、他の人のために生きることを意味します。兄弟のために自分は存在するので、自分の生活の土台に据えるのは「兄弟」です。そうして初めて、人は自分の人生に意味を見出します。イエスが最も心にかけておられる望みを果たすことになり、福音の真髄を得ることになります。こうして、まさに私たちも『幸いな者』となります」と。²

★いのちの言葉の集い

関東 10月8日(日) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室
(週日に、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 10月8日(日) 14:00~ 瀬戸市みずの坂 サポートハウスゆうや

長崎 10月22日(日) 11:00~ カトリック浦上教会 要理教室

★2017 マリアポリ in 埼玉

とき: 11月10日(金) ~ 11月12日(日)

場所: 国立女性教育会館 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

★キアラルービック帰天10周年記念ミサ

とき: 2018年3月17日(土) 15時~ 場所: 四谷 イグナチオ教会主聖堂

連絡先: フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: conil157chl.wix.com/focolare-jp

¹ フィリピ2章6-7参照

² キアラ・ルービックによる「いのちの言葉—互いに愛し合う人々は幸いである」1982年4月

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2017年8月15日

跣足カルメル修道会 拡大総長顧問会

私たちの会のHPやソーシャルメディアですでに詳細はお知らせしてきましたように、アリッチャ（ローマ）で8月29日から9月6日まで、パウロ会の黙想の家「Divin Maestro」において、拡大総長顧問会が開かれました。

この会議は、三部に分けられました。第一部では総長によって、修道会の現状について上級長上たちに対して報告がなされました。次に副総長が、2015年のアピラでの総会議において決定された会憲再読の経過状況について報告いたしました。この最初の第一部、第二部では、各管区の代表者たちは、地理上の地域ごとに集まり、討議し、意見を発表するよう求められました。

最後に、上級長上たち——そのうちの何人かはこの職務に初めて就いたのですが——は、彼らの管区の活性化の助けとなるよう、総長の統治から開発されたミニ養成講座を受けました。

拡大総長顧問会は、副総長のアグステイ・ボレル神父による、他の領域にいる修道者に関する興味深い講話で閉じられました。彼は全会に向けて、このことについて考察し学ぶために文書を送ることでしょう。同一線上で、ザベリオ・カンニストラ総長は、9月6日から12日まで、全総長顧問たちと共に通常の総長顧問会を開き、アリッチャでの会議の結果を分析し、各地域の長上たちの貢献について評価いたします。



十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (117)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「涙で一杯になって」

この涙は、やはりヨハネ修士のやさしい目から湧き出たものですが、涙がこぼれた動機や状況は、前回とは大分違います。

これを語ったのは、マラゴンの跣足カルメル会修道女、聖アンジェロのマリーナです。彼女は、聖人と三回ほど、ゆっくりと、またついでのことでしたが、かなり微妙なことまで話した時のことを詳しく述べています。

彼女が聖人と話した第二回目の時は、ヨハネ修士は管区長顧問でした。会話のすべては、「無味乾燥について論じること」で終わりました。この「無味乾燥」から彼女にはとても不可解なことが起きていました。しっかりと、落ち着いて対処しなければなりません。ヨハネ修士と話した第三回目の内容から推測されるように、会話の内容は大体そんなところでした。聖人は、会の統治の中枢における出来事によって、少し、というよりかなり難しい日々を過ごしていました。マリーナは彼がとても落ち込んでいる様子を見て、尋ねました。「神父様は、今でも神さまがお祈りの中で示されることを、実践しておられるのですか」。

そしてこう続けています。

「彼はほろりとされ、目は涙で一杯になり、抑えることはできませんでした。

私は彼に言いました。

『神父様、無味乾燥は、高い所を行かねばならないでしょう』。

彼は答えました。

『乾燥していて、緑はありません。聖アンジェロ、私はもう何も言いません。彼らは私の言うことは聞かないのですから』。

そして、解説と言うか説明をしました。『彼には何らかの仕事を提供すべきだと、私は言ったのです』。

『彼らが私に耐え忍ばせた事柄については、だれも小罪を犯しませんでした。これらの仕事を喜ぶために私は来なければならなかったのです。今私が泣くのを姉妹が見たとしても、必要としている苦しみの栄光を私のために神に願ってください』。

カルメル誌 新刊案内



2017年 秋号 No.366

《今年の特集 三位一体のエリザベトの靈性》
 三位一体のエリザベトにおける「人間の召命」(3) 九里彰
 三位一体のエリザベトに影響を与えた靈性家(3) ルイスブルック
 松田浩一
 エディット・シュタインと三位一体のエリザベト 須沢かおり
 風に吹かれて(13)—虚無— 原 造
 フランス便り(3)夕日を浴びる葡萄畑
 —“聖なる”ものになるように あなたも嚼まれています 伊従信子
 遠藤周作の文学とテレーズの靈性(2)
 —『最後の殉教者』と『カルメル会修道女の対話』 片山はるひ
 道元の靈性に学ぶ(3)—心の無限の可能性 田畑邦治
 今はむかしのテレビ事情 森 みさ
 神がいつくまれた道(15) 奥村一朗

特集号「三位一体の聖エリザベトの祈り」

—現代人へのメッセージ—

エリザベトと共に生きる—永遠の光のもとで 片山はるひ
 続・歴史の中の三位一体のエリザベト 大瀬高司
 三位一体のエリザベトにおける苦しみの神秘 九里彰
 三位一体のエリザベトによる
 「聖書に基づくキリスト中心の生活」
 ポーリン・フェルナンデス
 父と子と聖霊の唯一の神を信じる
 —三位一体のエリザベトと共に 松田浩一

ご案内

1冊 460円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
 信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、600円【460円 (+送料140円)】程度の献金を
 下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬
 +特集号 計 3,000円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356





最新刊のご案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

新刊紹介



中川博道 神父の
待望の新刊が出来ました！！

存在の根を探して

6月23日発売

●イエスとともに

天地創造、カインとアベルの物語など、聖書に記された人間の姿、そして十戒の現代的意義や主の祈り、イエスの生き方をていねいに見ていくことを通して、心の奥底での神との生きた出会いへと読者をいざなう。カルメル会での40年にわたる観想生活から生まれた本書は、カルメルの靈性に触れ、味わう入門書として最適です。

主な内容

- ・ 生きることの原点
- ・ 「聴く」という生き方の意味
- ・ 私とは誰？——自らの存在に聴き入る
- ・ 現代という荒れ野を歩む道
- ・ 生きるイエスを捜し続ける教会
- ・ 「心の深い深い、いちばんの奥底」へ



B6判・1700円+税 ISBN978-4-87232-090-9

オリエンス宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

全国のキリスト教書店、Book Web、オリエンス宗教研究所HPもご利用ください。



奥村一郎選集

追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交渉など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしよう。

第1巻



慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ/小事と瑣事/禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交渉から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け—宗教対話/日本人とキリスト教—遠藤文学の魂

第3巻



日本の神学を求めて 解説・小野寺功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学—根源への問い/相互愛/「信ずる」と「愛する」/新しい旋

第4巻



日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造/「ことば」から「みことば」へ/聖書と翻訳

第5巻



現代人と宗教 解説・鶴岡賀雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教/偶像の喪失/退屈/「新しい人」としての真人

第6巻



永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛—人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰/人間の栄光と悲惨/神は死せり/十字架の秘義/人間と世界と神

第7巻



カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア/十字架のヨハネ/小ききテレーズと東洋の霊性

第8巻



神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り/現代における祈りの指導者/祈りとは何か?

第9巻



奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつゝ奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。満ちかな矛盾/世を変えるパン種として/清貧の誓願/現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

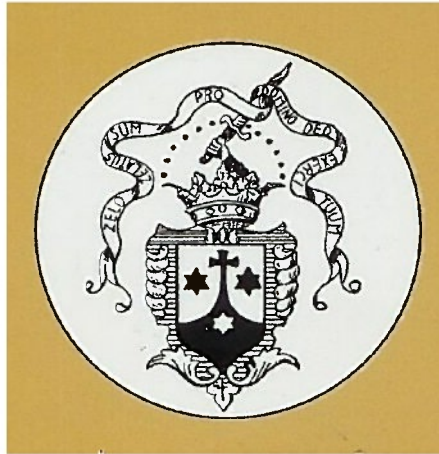
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

上野毛霊性センター(東京) 2017年10月～2018年3月

黙想企画 **上野毛聖テレジア修道院(黙想)**

1. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2017年12月24日(日)～25日(月)朝食《講話なし、夕食なし》

2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2017年

10/6(金) 11/10(金) 11/30(木)

12/7(木) 12/22(金)

2018年

1/11(木) 1/26(金) 2/8(木) 2/23(金) 3/8(木) 3/23(金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

3. 奉獻生活者のための黙想会

2017年

12月27日(水) 17時～2018年1月5日(金) 朝 福田正範神父

4. 奉獻生活者ならびに一般信徒のための黙想会

2017年

10月10日(火) 17時～10月19日(木) 朝 福田正範神父

5. 青年黙想会(男女) 35歳位まで

2018年

2月10日(土) 16時～12日(月) 16時 カルメル会士

6. 召命黙想会(男女) 40歳位まで

2017年

11月3日(金) 16時～5日(日) 16時 カルメル会士

7. 四旬節黙想会 (テーマ: ゆるしの喜び)

2017年

3月 18日(土) 18時夕食～20日(月) 16時

福田正範神父

8. 特別黙想会 S r. 伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ)

2017年

12月8日(金) 20時～10日(日) 16時



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

[Tel:03-5706-7355](tel:03-5706-7355) Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

***** 日帰り黙想会 *****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことは☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ” とヒエロニモは言いました。

第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

* 午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加……¥2000、午前からのご参加……¥3500

日時：2017年 9月7日(木) 午後1時30分～4時

* 9月21日より変更

10月6日(金) ”

* 10月27日より変更

11月10日(金) ”

11月30日(木) ”

12月 7日(木) ”



お問合せ・お申込み：

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

《2017年 名古屋一日静修》

三位一体の聖エリザベトの祈り

— 現代人へのメッセージ —

11月25日（土）午前10時～午後4時

講師 Sr.ポーリン・フェルナンデス

「三位一体のエリザベトによる

『聖書に基づくキリスト中心の生活』

場所 カトリック日比野教会 信徒会館

（地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分）

参加費 1000円

持ち物 聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当

申込み 下記いずれかの方法でお申込み下さい。

FAX / 0568 - 62 - 5167

E-mail / seisyuu_2015@yahoo.co.jp

ハガキ / 〒484-0076 犬山市橋爪一丁田 1-26

「名古屋一日静修」係り



《特別黙想会》

日時：2017年12月9日（土）～10日（日）
16時半受付～翌日16時

「三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘」
指導司祭：九里彰神父

申込み：宇治聖テレジア修道院（黙想）

Tel：0774-32-7016

Fax 0774-32-7457

プログラム

- 9:45 受付
- 10:00 導入の祈り（聖堂）
- 10:20 第一講話（信徒会館）
- 11:30 念 祷 *
- 12:00 昼 食（信徒会館）
- 12:30 念 祷 *
- 13:00 第二講話
- 14:00 念 祷
- 14:30 ミ サ（聖堂）
- 15:30 茶話会（信徒会館）
- 16:00 終了の祈り

*希望者は赦しの秘跡または
面接を受ける事ができます

跣足カルメル修道会主催、カルメル在世会協賛

宇治カルメル会 2017年 黙想会案内

【一般のための黙想】

・1泊2日 10月7日(土)～8日(日) テレーズと共に生きる 中川博道神父
(午後5時～午後4時)

【聖書深読黙想会】

(午前10時～午後4時) 11月25日(土) 中川博道神父

【水曜の黙想】

(午前10時～午後4時)
10月18日(水) ロザリオを生きる 中川博道神父
11月29日(水) 「ラウダート・シ」を生きる 中川博道神父
12月13日(水) 三位一体の聖エリザベトと三位一体の神 九里彰神父

【生活の中での霊的同伴】

・1泊2日(金)夕食なし 11月24日(金)～25日(土) 九里彰神父
(午後8時～午後3時)

【特別黙想会—三位一体の聖エリザベトの祈り—】

・1泊2日 12月9日(土)～10日(日) 三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘 九里彰神父
(午後4時半～午後4時)

【青年の集いin Uji】 高校生以上35歳まで

(午前10時～午後4時半) 11月3日(金) 中川博道神父

【待降節の黙想】

(午後5時～午後4時) 12月2日(土)～3日(日) 受肉の神秘 九里彰神父

【奉獻生活者の黙想】

(午後5時～午前9時) 11月7日(火)～16日(木) 中川博道神父
12月27日(水)～1月5日(金) 九里彰神父

【English Retreat】

(10am to 4pm) 11月18日(土) A pilgrimage to Jerusalem with Magi Sr.Rosa

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
12月24日(日)～25日(月) {講話なし、各食事つき}

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしく願いいたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：7205805
名義：男子洗足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子洗足カルメル修道会



男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市中熱田区大宝 4-5-17
Tel: 052-571-1558 Fax: 052-681-6445

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
慈しみ深き会
マリアポリ（フォコラーレ）

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2017年予定

T1	03/12 (日) -03/18 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
K2	03/27 (日) -04/01 (土)	東京小金井・聖霊会
N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
K2	06/11 (日) -06/17 (土)	東京小金井・聖霊会
T2	07/02 (日) -07/08 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
T3	09/03 (日) -09/09 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	11/05 (日) -11/11 (土)	東京小金井・聖霊会
T4	12/03 (日) -12/09 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ

2018年予定

K1	05/06 (日) -05/12 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
K2	10/07 (日) -10/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム

真命山

祈りの集い

年間のテーマ

山上の教え

2017



年度行事のご案内

祈りの集い(10時～15:00時)

- 1月12日 幸せの道・イエスの山上の垂訓 (マタイ5・7)
- 2月9日 心の貧しい人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5・3)
- 3月9日 柔和な人々は、幸せである、その人たちは地を受け継ぐ。(マタイ5・4)
- 4月20日 悲しむ人々は、幸せである、その人たちは慰められる。(マタイ5・5)
- 5月11日 義に飢え渴く人々は、幸せである、その人たちは満たされる。(マタイ5・6)
- 6月8日 憐れみ深い人々は、幸せである、その人たちは憐れみを受ける。(マタイ5・7)
- 7月13日 心の清い人々は、幸せである、その人たちは神を見る。(マタイ5・8)
- 8月 休み
- 9月14日 日平和を実現する人々は、幸せである。その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ5・9)
- 10月12日 義のために迫害される人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5・10)
- 11月9日 幸いなのは、神の言葉を聞き、それを守る人たちである。(ルカ11・27・28)
- 12月14日 見ないのに信ずる者は、幸いである。(ヨハネ20・29)

指導者 口ッコ 神父

※ 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

講話と祈りの集い



2017年
10月14日(土)
11月18日(土)

午後2時～午後5時30分

担当 伊従 信子

講話・祈り・質問・分かち合い

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）

参加費：200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

コース	日時	指導者	開催場所	申込み
サダナ I	10/26(木) 17:30- 29(月)16:00	Fr植栗	西日本霊性センター (広島市佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク Tel082-239-0034
サダナ I & アドバンス	11/2(木) 17:30- 5(日)16:00	Fr植栗	浜松三ヶ日研修センタ ー(浜松市)	来間(くるま)裕美子※ Tel090-5325-2518 045-577-0740
入門B	11/19(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
サダナ II	11/22(水)17:30- 26(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野毛 修道院(黙想の家) (世田谷区上野毛)	同上
フォローアップ	12/3(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
入門C	2018年 1/14(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
サダナ I	2/9(金) 17:30- 12(月)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	同上

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門A. B. C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ Iを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2017年 5月 6日(土)～ 5月14日(日)
- ② 8月14日(月)～ 8月22日(火)
- ③ 10月 9日(月)～ 10月17日(火)
- ④ 12月27日(水)～ 2018年1月 4日(木)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2017年 2月 3日(金)～ 2月5日(日)
- ② 2月24日(金)～ 2月26日(日)
- ③ 3月17日(金)～ 3月19日(日)
- ④ 6月16日(金)～ 6月18日(日)
- ⑤ 7月14日(金)～ 7月16日(日)
- ⑥ 9月15日(金)～ 9月17日(日)
- ⑦ 11月17日(金)～11月19日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2017年 5月30日(火)～6月7日(水) 阿部 仲麻呂 師 (サゾウ会)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

希望への道

2017年度 女子青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	4月22日(土)～23日(日)	なぜそのようなことがあり得ますでしょうか。	山内十束師(ご受難会)
2	6月10日(土)～11日(日)	おことばのとおり、この身になりますように。	山内十束師(ご受難会)
3	11月11日(土)～12日(日)	神は卑しいはしためを顧みられた。	山内十束師(ご受難会)
4	2月17日(土)～18日(日)	心に納めて、思い巡らす。	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

希望への道

—神は卑しいはしためを顧みられた—

2017年度 第3回 女子青年黙想会

日時： 11月11日(土) 15:00～

12日(日) 15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2017年11月5日(日)まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

●キリスト教入門講座(右頁参照)

金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座(右頁参照)

毎月第1・第3・第5火曜日

18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー

下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2017年度冬学期: 理性と神認識—中世—

10/07 ボエティウス: 幸福論と神認識(6世紀)

10/14 エリウゲナ: 神と世界の循環(9世紀)

10/21 カンタベリーのアンセルムス:

知解を求める信仰(11世紀)

10/28 クレルヴォーのベルナルドゥス:

理性に優る愛(12世紀)

11/18 ヒルデガルト他の女性神秘家

(12/13世紀)

11/25 リカルドゥス、ギヨーム: 三位一体論;

愛の力(12世紀)

●神学読書会

第2・第4木曜日: 18時-20時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と神学に関する文章を読んで、話し合います。
4月27日から。但し祝日、8月全体は休み。

・ミサ: 上記読書会後20時-20時45分 クルトウルハイム1F右聖テレジア小聖堂どなたでも。

●黙想

・「会社帰りの黙想」

毎月第2・第4火曜日 18時45分-20時

聖イグナチオ教会マリア中聖堂

4月25日から。但し祝日、8月全体は休み。

・「黙想会」

11月11日(土)-12日(日)(上石神井)

2018年 3月17日(土)-18日(日)(上石神井)

1泊2日。申込の締切りは、初日の10日前。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分-16時 上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。講話、黙想、ミサがあります。
2017年

10月14日、11月25日

2018年

1月20日、2月17日

・ロザリオの祈り

(上記同日のミサに続いて)16時10分 -16時50分

●坐禅会

・第1、第3月曜日: 18時00分-20時00分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。2回坐り、間に講話。

(5月15日から。但し祝日、8月全体、12月25日は休み)

●坐禅接心

11月1日(水) 20時20分-5日(日) 8時30分

秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。

事前申込み要。

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ

(14時-18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。

10月21日(土)

2018年 1月27日(土)

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2017年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 10/06 洗礼と堅信— イエスに結ばれて生きる
- 10/13 教会の成立と意味— イエスを中心に集う
- 10/20 人間としてのイエス— 新しい人間像の基礎づけ
- 10/27 御子としてのイエス— 神との関係
- 11/10 父と子と聖霊— 神の生命に与る
- 11/11-12 ●黙想会(上石神井)
- 11/17 信仰の決断— 支えられて生きる
- 11/24 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧
- 12/01 自己実現と神の意志— 生き方の規範
- 12/08 人間の弱さ— 罪とは何か
- 12/15 恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける
- 12/22 愛の心— キリスト教の本質
- 12/23 ◆クリスマスのみサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
- 12/25 ●クリスマスのみサ(18時50分-20時10分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)

キリスト教理解講座 2017年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [根本的態度]
- 10/03 唯一の掟— 愛による完成
- 10/17 基本的な徳— 判断力・勇気・節制
- 11/07 共同存在— 共通善・正義・奉仕
- 11/11-12 ●黙想会(上石神井)
- 11/21 個人の道— 自己の課題と聖霊の導き
- 12/05 対人関係と友愛— 恵みである他者
- 12/19 身体と生命— 性と倫理
- 12/23 ■クリスマスのみサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2F、80人限定)
- 12/25 ●クリスマスのみサ(18時55分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

【2016年予定】

~~12月15日(木)『霊の賛歌』第5回目：第3の歌 終了~~

【2017年予定】

1月19日(木)『霊の賛歌』第6回目：第4～5の歌 終了

3月16日(木)『霊の賛歌』第7回目：第6の歌 終了

5月25日(木)『霊の賛歌』第8回目：第7の歌 終了

7月20日(木)『霊の賛歌』第9回目：第8と第9の歌 終了

9月21日(木)『霊の賛歌』第10回目：第10の歌 終了

11月16日(木)『霊の賛歌』第11回目：第11の歌

12月21日(木)『霊の賛歌』第12回目：第12の歌

* 参加費無料（献金歓迎）

* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）



<<特別黙想会>>

日時：2017年12月16日(土) 4時半受付～17日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘」

指導司祭：九里彰神父

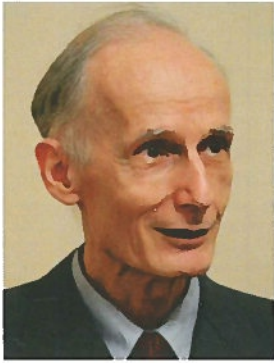
申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想	
	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓けて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践	
	信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

申込書

代表者氏名 _____
 代表者住所 _____
 連絡先 Tel. _____
 E-Mail _____

★性別・宿泊・食事欄は必要な箇所に○印をつけてください。

名前	性別	年齢	備考	食事
	男		10日	夕
	・女		11日	朝昼夕
			12日	朝昼
	男		10日	夕
	・女		11日	朝昼夕
			12日	朝昼
	男		10日	夕
	・女		11日	朝昼夕
			12日	朝昼
	男		10日	夕
	・女		11日	朝昼夕
			12日	朝昼

振込金額

参加費	人分	円
他の方への支援献金・会場費等のため		円
振込額		円

申込書は別り取らずにFAX か メール でお申し込みください。

参加費

- ◆宿泊される方
- 1泊2日 (夕食1・宿泊1・朝食1)
 大人 7,000円
 中・高校生 6,000円
 小学生 5,000円
 未就学児 1,500円
- 2泊3日 (夕食2・宿泊2・朝食2)
 大人 14,000円
 中・高校生 12,000円
 小学生 10,000円
 未就学児 3,000円

◆宿泊されない方

- 大人のみ 1,000円
- ※朝食、夕食をご希望の方は予め申込みが必要です。
- 夕食
 大人 1,080円
 小学生 864円
 幼児 540円

参加費に昼食代は含まれていません。昼食は個々に施設内のレストランを利用していただきます。(衛生上持参はできません) 産食や井ものなど、多彩なメニュー(550円~800円程度)からお好きなものを選んでお召し上がりください。

★レストラン利用者数を把握しておくため、申込書の食事欄には記入を忘れずにお願いたします。

◆申込締切*

2017年9月30日(土)

◆振込口座*

三菱東京UFJ銀行 西荻窪駅前支店
 (普通) 0951732 フォコローレ会 代表者 黒川真理子
 ※参加費についてのお問い合わせは、フォコローレまで……

<キャンセル料>

不泊100%、当日100%、前日80%、9日前20%、20日前10%
 食事：当日80%、前日20%

2017

マリアポリ in 埼玉

～夜空に輝く星のように～
 苦しみが喜びに



2017年11月10日(金)～12日(日)

主催：フォコローレ

お申し込み・お問い合わせ先

フォコローレ

〒166-0001

東京都杉並区阿佐谷北2-31-12

Tel: 03-3330-5619 Fax: 03-5356-6101

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

プログラム

11月10日(金) 《事前準備会》

みんなでマリアポリを作りましょう!!

- 15:00~17:00 出合いの交わり【101 研修室】
- 18:00~19:00 夕食【宿泊棟レストラン】
- 19:30~21:00 マリアポリを始めるための
心と場研の準備【大会議室】

11月11日(土)

- 7:00~ 8:30 朝食【宿泊棟レストラン】
- 10:00~10:40 プログラム①【大会議室】

朝のつどい

※子どもたちは別プログラムがあります
11:00~12:00 祈りの時間

<ミサ(司式：梅村司教様)>

- 12:00~13:30 昼食【宿泊棟レストラン】
 - 14:00~17:00 プログラム②【大会議室】
- 午後のつどいと自然散策
- 18:00~19:00 夕食【宿泊棟レストラン】
 - 19:30~20:30 プログラム③【大会議室】
- 夜のつどい

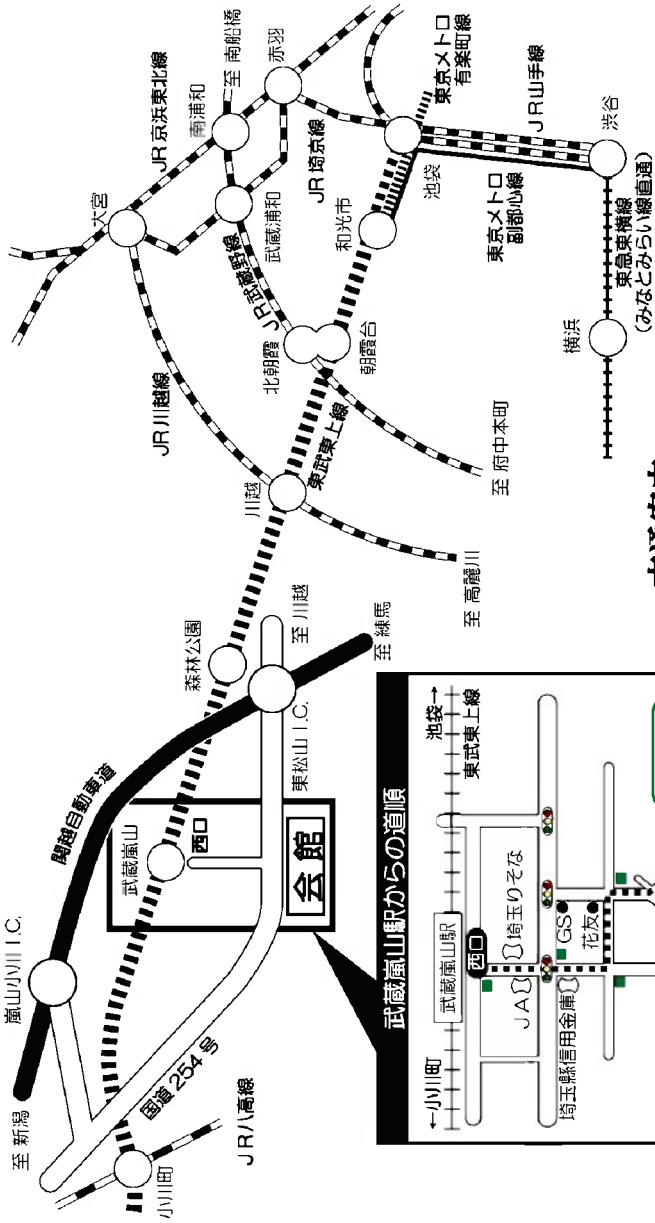
11月12日(日)

- 7:00~ 8:30 朝食【宿泊棟レストラン】
 - 9:00~10:30 プログラム④【110 研修室】
- 朝のつどい
- 11:00~12:00 祈りの時間
 - 12:00~13:30 昼食【宿泊棟レストラン】
 - 14:00~16:00 プログラム⑤【110 研修室】
- 明日に向けて

※ プログラムは事情により変更することがあります。



マリアポリ会場へのご案内



交通案内

- **池袋駅**から東武東上線 武蔵嵐山駅まで
急行で約65分 駅からは徒歩で約15分です。
- **川越駅**から東武東上線 武蔵嵐山駅まで
急行で約31分です。
- ★ 羽田空港から川越駅まではリムジンバス
で約100分です。
- **横浜駅**からは東急東横線～東武東上線
直通のFライナーに乗り途中森林公園駅で
のりかえて武蔵嵐山駅まで約2時間です。
- **お車**で関越自動車道を東松山 IC 降りて
国道254号線を通って約15分です。

※ 到着しましたら、各研修室まで直接お越しください。

四季の移ろいを楽しめる緑豊かな場所です。

※ タオル、バスタオル、ハブラジは備え付けがあります

と き： 11月10日(金)～12日(日)

ばしよ： **国立女性教育会館**

埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

TEL 0493-62-6711

<https://www.n.wec-bs.jp/>



『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座（新設）
へお振り込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-33318
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

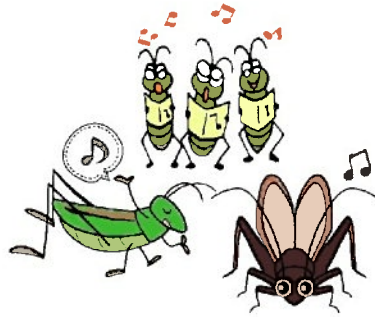
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
《変わりました》 reisei@carmel-monastery.jp

「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、7月より、宇治靈性センター事務局で編集、
印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担し
ております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00910-6-33318
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

10月というと、秋晴れの日が続き、暑くもなく寒くもなく、日本では一番？過ごしやすい月という感じがするが、どうだろうか。

宇治の修道院では、夏の激しい蝉しぐれが聞こえなくなったと思ったら、今度は秋の虫がうるさいぐらいに鳴いている。チンチロチンチロチン、リンリンリンリン、キリキリキリキリ、ガチャガチャガチャガチャ、チョンチョンチョンチョンスイッチョン、すぐ何の虫か分かる人は、童謡「秋の虫」を熱心に歌っていた人かもしれない。

ある夜、耳を澄まして聞いていると、虫の声だけでなく、町の騒音、救急車の音まで聞こえてくる。「秋の夜のすさまじきもの、遠くに聞こゆる救急車の音など、いとわろし」(『新枕草子』)。(P. 九里)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

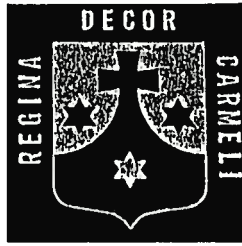
<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



『靈性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願い致します



製本／発送のご協力お願い

「靈性センターニュース」の製本/発送を、7月号より宇治修道院で行うことになりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。

皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

1 1月号の製本/発送日 **10月27日(金) 午前9時半頃から**
宇治修道院信徒会館

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

靈性センター事務局 ☎0774-32-7456